

みどりの 東北

MIDORI NO TOHOKU



大井沢より臨む月山(山形県) [提供: 東北森林管理局登山同好会]

特集

令和元年度 地域管理経営計画等の策定について [計画課]

CONTENTS

■美しい森林づくり

森林・林業を次代につなぐ体験林業・森林環境教育を推進…………… [上小阿仁支署]

■我が署の名所

平蔵沢ヒバ人工林施業展示林(岩手県滝沢市)…………… [盛岡森林管理署]





令和元年度 地域管理経営計画等の策定について

計画課

東北森林管理局では、東北5県の17森林計画区毎に地域管理経営計画及び国有林野施業実施計画を策定しています。地域管理経営計画は国有林野の管理経営に関する基本的な事項を定め

た計画であり、この計画に即して国有林野施業実施計画を策定しています。国有林野施業実施計画は、具体的な国有林野の伐採、造林等の箇所や量を定めた計画となっております。



策定又は変更した森林計画区

令和元年度は、三八上北、大槌・気仙川、雄物川、最上村山の4森林計画区で計画を策定し、下北、馬淵川上流、久慈・閉伊川、北上川中流、宮城南部、米代川、置賜の7森林計画区で計画の変更を行いました（下北及び馬淵川上流は国有林野施業実施計画のみの変更）。

計画の策定及び変更に当たっては、地域住民からの意見や要望を伺うための住民懇談会を行うとともに、研究者、林業関係者、報道関係者、公募委員等により構成される森林計画等に関する検討委員会からも現地検討会を開催し、意見等を伺いました。

住民懇談会については、平成30年から平成31年にかけて三八上北、大槌・気仙川、雄物川、最上村山の各森林計画区で開催

しました。懇談会では、森林計画区の概況や次期計画の策定に当たつての基本方針を説明した後、意見交換を行いました。参加者からは、「病虫獣害をめぐる状況変化等、前計画の5年間の変化をしっかりと踏まえた計画



住民懇談会の様子（最上村山森林計画区）

にしてほつし」、「高齢級秋田又
ギの一部については、通常伐期で
の立木販売を検討してほつし」、「
ナラ枯れ対策などほつし」、「
相談に乗ってほつし」、「国有林
から広葉樹材の供給をしてほし
い」等の意見・要望が寄せられ
ました。

森林計画等に関する検討会委
員による現地検討会については、
令和元年7月30日から31日の2
日間にわたり雄物川森林計画区
内の秋田県秋田市及び仙北市で
開催しました。

本現地検討会は、先の住民懇
談会での意見等を踏まえ、「多
様な森林づくりの推進に向けた



クマタカの営巣地周辺での検討

森林施業」「民国連携したナラ
枯れ対策」「広葉樹択伐等の実
施箇所の更新状況」をテーマに
行いました。

1日目は岩見ダム（秋田市）
周辺において、多様な森林づく
りについて現地検討を行い、施
業の検討に当たっては固定観念
にとらわれないよう若手職員の
意見を積極的に取り入れている
こと、クマタカの営巣地に配慮
して施業を行うこと等の説明を
行いました。また、ナラ枯れ対
策については県の担当者も交え
て、民国連携について説明を行
いました。

2日目は仙北市に現地を移し、



ドローンで撮影した画像を利用した現地説明

広葉樹択伐等の実施箇所の更新
状況について現地検討を行いま
した。今回の現地検討会ではあ
らかじめドローンで撮影した画
像を拡大して示したり、現地で
実際にドローンも活用したりす
るなど、より分かりやすい説明
となるよう工夫をしました。



ドローンを活用した現地検討

委員からは、「針広混交林化を
森林の多面的機能を向上させる
ための取組として国民にアピー
ルする必要があるのではないか」、
「若手職員の意見を大胆に取り
入れているのは評価すべき点であ
る」「広葉樹の試験地については、

振り返ることが有用ではないか
と思う」等の意見を頂きました。
また、「素材生産事業体と生産
者をつなげて良い材を出せればと
思う」、「ナラ枯れ対策としての
広葉樹の伐採であれば、利用と一
緒に考えるのではなく、ナラ枯
れ対策に特化すべき」等のご指
摘も頂きました。

住民懇談会と現地検討会を
通じて得られた貴重な意見等を
参考に計画書案を作成し、30日
間の公告・縦覧後の令和2年3
月18日に、森林計画等に関する
検討会委員から意見等を伺った
ための「森林計画等に関する検討
会」を開催しました。新型コロ
ナウイルス感染症の状況に鑑み
て本年は書面での開催となりま
したが、委員からは、「下刈り
の実施が少ないことで人工林の
成林状況に問題はないか」、「天
然更新の成否がどうなっている
か」といった質問が寄せられる
とともに、「主伐時、間伐時、
再造林の植栽時、下刈時につい
ても、生物多様性に配慮するべ
き」、「引き続き気候変動等に
よる豪雨災害の増加を念頭に柔
軟に計画の変更をしてほつし」、

「今後も様々な分野において施業集約化等、民国連携を進めていただきたい」等の意見をいただきました。計画案は了承され、令和2年3月30日に公表しています。

令和2年度は、東青（青森県）、北上川上流（岩手県）、宮城南部（宮城県）、子吉川（秋田県）の4森林計画区において、地域管理経営計画及び国有林野施業実施計画の策定を予定しています。



市民の舞台で署員が熱演！

岩手南部森林管理署 遠野支署

いまや全国各地で開催されている「市民の舞台(市民劇場)」の草分け「遠野物語ファンタジー」の公演に当支署の署員3名がキャストとして参加し熱演しました。

今年第45回記念公演として遠野物語を題材とした「座敷わらしの白い花」が2月22日から23日の2日間、計3回上演され、盗賊団の一味に潜入された長者一家が破滅する悲劇と、家族を失った長者の孫娘を庭師の若い兄弟が引き取り、盗賊団に再び狙われながらも座敷わらしに見守られながら家族を再生する人間模様が演じられました。

参加した署員は、多忙な業務と両立しながら、年度末の約3ヶ月間、每晚2時間の稽古に取り組んでいました。特に、盗賊団の首領役の森林官附馬牛担当区)の鈴木研介は、憎たらしくなるような迫真の悪党ぶりが注目

され、遠野のケーブルテレビのニュースでも国有林での勤務風景などが特集されています。

また、遠野物語ファンタジーでは劇中に伝統芸能やパレオ組み込まれ、音楽も市民による生演奏・生合唱で行われるのが大きな特色で、キャスト以外にも署員がユーフォニアムを演奏するなど、地域の一大行事に複数の署員が参加しま



会場が沸いたカーテンコール



盗賊の首領を演じる鈴木森林官

した。これまで署員たちは、遠野まじりの「地域みこし」や遠野さくらまつりの「南部氏入部行列」などにも参加しており、業務だけでなく地域の一員としての活動や交流を通じて、地域と国有林の相互理解が深まっていくことが期待されます。

春の香りをすすそ分け

冬芽のあるサクラの剪定枝は、冬の寒さにあてた後に、暖かい場所で水に活けておくと花芽が膨らんで、やがて開花します(これは「ふかし」という技術です)。

遠野支署では、この冬に構内のカスミザクラの手入れを行い多数の剪定枝が生じたため、これを「春のおすす分け」として、市内の観光・交流施設等に提供し、市民や訪れた方々に「足早い春の訪れを感じてもらいました。ひと月以上早く咲いた花は市民の心を和ませ、森林管理署のサクラとして地域のケーブルテレビやSNSなどでも紹介されました。



春のおすす分け (写真提供:遠野市観光協会)

美しい森林づくり

森林・林業を次代につなぐ体験林業・ 森林環境教育を推進

上小阿仁支署

上小阿仁村は、秋田県のほぼ中央、秋田市から60km圏内にあり、村の総面積25,672haのうち森林面積(24,251ha)が95%を占め、林業は、秋田スギなどの豊富な森林資源を元に主要な産業として発展してきました。

平成29年4月に、収益性の高い経営を実現することを目的とした林野庁の「林業成長産業化地域」に大館市・北秋田市・上小阿仁村の2市1村で構成する「大館北秋田地域」に選定され、林業を軸とした地域産業の成長の実現に向けた取組が、積極的に進められているところです。

「のぞみの森」の活動

上小阿仁支署と上小阿仁中学校は2015年、森林環境教育推進を目的とした森林教室、自然観察、下草刈りや除伐、枝打ちといった林業体験を行う「遊々(ゆうゆう)の森」の協定を締結。小沢田内の国有林17.78haを「のぞみの森」と命名し活動しています。

今年度は、体験林業を10月21日に小沢田地区の国有林で開き、上小阿仁中学校3年生11名がスギの枝打ちなどを通して森林への理解を深めました。はじめに支署長より「森林は住宅や家具などの生活の一部として活用する木材をはじめ、地球温暖化防止などの森林の持つ

多面的な機能により人々の生活を守っている。機能を十分發揮させるためには、森林の手入れが大切。森林に感謝し、立派に育つよう思いを込めて作業をして下さい」と挨拶があり、その後、職員がノコギリの使い方説明。「枝打ちは幹と枝の付け根を切り落とします。木が大きくなつた時に節のない良い木材を作るために行います。つるが巻き付いていると木を締め付けるので取り除いて下さい。また、広葉樹などを除伐して日当たりをよくして下さい」などアドバイスし、除伐・つる切りなどの作業を実施しました。初めはノコギリの刃がひっかかるなど苦戦していましたが、慣れてくると上手に使いこなす、枝の付け根からきれいに切



「除伐」を体験

り落とせるようになり、作業を通して森林の大切さを実感するとともに、森林の持つ役割についても関心をもっていただけたと思います。

次代につなぐ森林教室

上小阿仁小学校3年生8名を対象として、上大内沢自然観察教育林内で森林教室を10月30日開催しました。

森の巨人たち100選の一つの「コブ杉」まで続く遊歩道を歩きながら、森林の持つ機能や役割について学習し、天然秋田スギの前ではその大きさを実感するため直に触れたりしてもらいました。

児童達は、その太さや高さの本数に圧倒された様子で、天然秋田スギの貴重さを学習しました。

その後、国立科学博物館に展示するために伐採した天然秋田スギの伐根の前で説明を受け、



不思議で神秘的「コブ杉」の前で

最後に「コブ杉」を見学し、山形広場に戻りドローンで上空から見学した天然秋田スギなどをタブレット上で確認しました。

児童からは、「天然秋田スギと人工の秋田スギの違いは?」「コブ杉のコブはどうしてできるの?」などの質問がでるなど、森林について興味をもってくれたことを実感し、中学生になり「のぞみの森」での体験林業につながってくればと感じました。

また、秋田県・上小阿仁村・地元森林組合等と連携し、地元保育園児及びその保護者を対象に、紙芝居・木のおもちゃ・木工など木育活動の展開をしています。園児から中学生まで間々木材から森林・林業に親しむきっかけづくりを行い、「次代につなぐ森林」を意識しながら、森林の持つ役割や大切さについて伝えていきたいと取り組んでいます。



保育園「出前木育」



ゆきがた 雪形と春の花

—オドリコソウ、ヒトリシズカ、ニリンソウ、オキナグサ、オオカメノキ—

三八上北森林管理署 地域統括森林官 松尾 亨

八甲田の蟹ハサミや岩木山の下りウサギ、岩手山のワシなど、雪国では雪形を動物や道具に見立て、その変化を楽しみながら農事暦とした故事が多くあります。植物にも花や葉の形態を喩えたものや、開花時期を農作業の目安としたものがあり、今回は見立て方の面白い春の花を紹介します。

オドリコソウは高さ50cmほどのシソ科の草本で、道ばたや畑の縁で見られ四角い茎が特徴。由来は薄ピンクの花の上唇を笠に見立て、下唇が踊り子の横顔に見えることから。ヒトリシズカは、20cmほどで日当たりのよい山地で見られ、艶のある4枚の葉と荒いブラシのような1本花が特徴。由来は1本の花を「一人静」に見立てた。ニリンソウは林縁などで見られ群落になり、3列した葉の付け根から、白く5弁の2本の花をつけることが二輪草の由来。別名フクベラとも言われ食べられますがトリカブトとの誤植に注意。オキナグサはシバ草原に見られる草本で高さ25cmほど、うつむき加減に咲く紫の花が特徴で、茎や葉に細かい毛があります。由来は綿毛

に包まれた種を「翁」の白髪頭に喩えたこと、最近では減少し絶滅危惧Ⅱ類。オオカメノキは林内で見られ5m程度の低木。白い4弁の装飾花を持ち、中心部に薄黄色の散房花をつけます。由来は葉の形を亀の甲羅に見立てた。冬芽も泳ぐ亀に見えますよ。

雪形が山名になった白馬岳(代掻馬)や翁ヶ岳(種まき翁)、植物では開花が作業の目安の、種付花や田打ち桜(コブシ)、また、鯁漁や鰯漁、水遊びの目安となった雪形の話もあり、先人達の知恵と楽しみが詰まっています。雪形の魅力をもう一つ、桜の名所のバックには雪山と雪形の借景が欠かせません。そんなバックヤードは殆どが国有林！将来も雪形と春の花を楽しめるよう、バックヤードのキーパーとして頑張ってください。



①オドリコソウ



②ヒトリシズカ



③ニリンソウ



④オキナグサ花



⑤オキナグサ種(翁の白髪のイメージ)



⑥オオカメノキ

新任者略歴紹介

4月1日付け

局長

やなぎだ しんいちろう
柳田 真一郎
(福岡県)



- 昭和 60.4 林野庁業務部経営企画課
- 平成 27.4 林野庁森林整備部治山課長
- 平成 28.4 森林整備センター審議役(総合調整担当)
- 平成 30.4 国立研究開発法人森林研究・整備機構理事

次長

ながえ よしあき
長江 良明
(宮城県)



- 昭和 61.4 林野庁管理部職員課
- 平成 25.4 山梨県林務長
- 平成 27.4 林野庁林政部経営課特用林産対策室長
- 平成 30.4 林野庁林政部林政課監査室長

計画保全部長

かつき ひでのぶ
香月 英伸
(福岡県)



- 平成 2.4 林野庁業務部業務第二課
- 平成 27.10 林野庁林政部木材産業課木材製品技術室長
- 平成 28.8 大臣官房政策課調査官
- 平成 29.1 関東森林管理局福島森林管理署長

計画課長

とみおか こういちろう
富岡 弘一郎
(青森県)



- 平成 6.4 林野庁林政部森林組合課
- 平成 24.4 日本政策金融公庫農林水産事業本部
- 平成 27.4 農村振興局農村政策部都市農村交流課課長補佐
- 平成 29.4 中部森林管理局計画保全部計画課長

保全課長

おがさわら たかし
小笠原 孝
(秋田県)



- 昭和 57.4 秋田局造林課
- 平成 27.12 岩手南部森林管理署遠野支署長
- 平成 30.4 森林技術・支援センター所長
- 平成 31.4 三陸中部森林管理署長

治山課長

なかしま ひろのり
中島 浩徳
(愛知県)



- 平成 19.4 林野庁森林整備部治山課
- 平成 27.10 大臣官房検査・監察部調整・監察課行政監察官
- 平成 29.4 林野庁森林整備部計画課森林情報高度化推進官
- 平成 30.10 政策統括官付企画官

技術普及課長

しょうじ けん
東海林 見
(岩手県)



- 昭和 57.4 青森局計画課
- 平成 26.4 盛岡森林管理署次長
- 平成 28.4 総務課企画官(安全衛生担当)
- 平成 30.4 三陸北部森林管理署久慈支署長

津軽白神森林生態系保全センター所長

たなか ゆうじ
田中 裕治
(青森県)



- 昭和 55.4 青森局人事課
- 平成 25.4 宮城北部森林管理署総括治山技術官
- 平成 27.4 計画保全部治山技術専門官
- 平成 30.4 米代東部森林管理署次長

青森森林管理署長

えさか ひみとし
江坂 文寿
(愛知県)



- 昭和 62.4 林野庁指導部治山課
- 平成 26.1 林野庁森林整備部治山課水源地治山対策室長
- 平成 27.4 中部局計画保全部長
- 平成 29.8 四国局業務管理官

下北森林管理署長

こまつ のぶひと
小松 信人
(秋田県)



- 昭和 55.4 秋田局利用課
- 平成 27.4 秋田森林管理署湯沢支署長
- 平成 29.4 資源活用課長
- 平成 31.4 由利森林管理署長

岩手北部森林管理署長

あさり かずなり
浅利 一成
(秋田県)



- 昭和 55.4 秋田局福利厚生課
- 平成 26.4 山形森林管理署次長
- 平成 29.4 秋田森林管理署湯沢支署長
- 平成 30.11 北海道局渡島森林管理署長

三陸北部森林管理署長

おかもと まさと
岡本 雅人
(北海道)



- 昭和 56.4 北見支局管理課
- 平成 24.4 林野庁国有林野部業務課課長補佐(災害対策担当)
- 平成 27.4 関東局治山課長
- 平成 29.4 北海道局留萌南部森林管理署長

久慈支署長

しょうじ たくや
庄司 卓矢
(秋田県)



- 昭和 60.4 秋田局利用課
- 平成 26.4 計画課課長補佐
- 平成 28.4 下北森林管理署次長
- 平成 30.4 森林整備部企画官(技術開発担当)

三陸中部森林管理署長

きくち たかかず
菊地 孝和
(秋田県)



- 昭和 58.4 青森局治山課
- 平成 25.4 三陸北部森林管理署次長
- 平成 27.4 米代東部森林管理署次長
- 平成 30.4 総務課企画官(安全衛生担当)

岩手南部森林管理署長

なかしま あきふみ
中島 章文
(岐阜県)



- 昭和 62.4 林野庁指導部計画課
- 平成 26.4 北海道局森林整備第一課長
- 平成 28.4 林木育種センター遺伝資源部遺伝資源管理主幹
- 平成 30.1 森林総合研究所企画部育種企画課長

米代東部森林管理署長

いちのみや ひでかず
一ノ宮 秀和
(秋田県)



- 昭和 55.4 秋田局経理課
- 平成 26.10 森林整備部企画官(技術開発・普及担当)
- 平成 28.10 三陸北部森林管理署久慈支署長
- 平成 30.4 山形森林管理署最上支署長

秋田森林管理署長

おまえ こうたろう
尾前 幸太郎
(熊本県)



- 平成 4.4 林野庁管理部管理課
- 平成 25.9 北海道局総務企画部企画課長
- 平成 27.4 北海道局計画保全部計画課長
- 平成 30.4 林野庁国有林野部経営企画課企画官(公益的機能維持増進協定担当)

由利森林管理署長

よねざわ みのる
米澤 実
(秋田県)



- 昭和 56.4 秋田局職員課
- 平成 26.4 米代東部森林管理署上小阿仁支署長
- 平成 28.4 総務企画部専門官(債権管理担当)
- 平成 30.4 林木育種センター東北育種場遺伝資源管理課長

最上支署長

かとう しげよし
加藤 重義
(秋田県)



- 昭和 58.4 秋田局治山課
- 平成 26.4 朝日庄内森林生態系保全センター所長
- 平成 28.4 計画保全部自然遺産保全調整官
- 平成 31.4 企画調整課監査官

置賜森林管理署長

みはら たかよし
三原 隆義
(北海道)



- 昭和 57.4 帯広支局利用課
- 平成 27.4 林野庁国有林野部管理課課長補佐(共済組合給付班担当)
- 平成 29.4 四国局森林技術・支援センター所長
- 平成 31.4 林野庁国有林野部管理課企画官(共済組合担当)

国有林モニターからの便り

国有林モニターに参加して 「当たり前前」に感謝して

湯沢市 佐井 敏夫



小学校を定年退職して3年目、「学校林・喜びの山」で子どもたちと行った緑の少年団活動が、頭に浮かぶ。計画・準備など

大変だったが、活動後の清々しさは忘れられない。久しぶりに山で気持ちのいい汗を流してみたくなり、応募した。

平成30年度2回行われた現地見学会、しばらく山に入っていないので少し心配したが、杞憂だった。無理のない計画で、私でも余裕を持って活動できた。4月に配られた「国有モニター実施計画」、一年間の流れがこれでつかめた。

一回目7月23日は山形森林管理署内西川町で。見学地①：蛇喰沢での治山事業見学。私は雄物川上流の川沿いに住んでいる。少し前に大水が出て、「避難指示」寸前までいった後だったので、特に興味があった。土砂が流失したところの治山事業を見ることができた。被

害を防げるような治山事業を進めてほしいと強く感じた。ドローンを身近で見たのは初めて、人とのような機械を融合させ、安心安全な国土づくりを進めてほしい。見学地②：大井沢国有林での生産事業見学。若い林業者が作業している姿を意図的に見せてもらい、うれしかった。後継者の育成、大事にしていきたい。この日は、暑いというより「熱い」といったくらいだったが、無理のない計画で有意義に見学を終えることができた。

二回目10月16日盛岡森林管理署内盛岡市滝沢市で。見学地①：盛岡市大ヶ生虫壁でのシカ被害対策箇所見学。植栽地への侵入を防ぐ対策現場を見せてもらった。近くの山に行った時、目の前にカモシカとの遭遇、ビックリ仰天！したことを思い出した。自然と共生しながらも、被害を広げない工夫、続けてほしい。見学地②：滝沢市柳沢での一貫作業システム見学。林業の低コストにむけたハーベスタによる伐採や一貫作業システムを間近で見学させてもらい、興味深かった。森林の公益的な機能は、大きいと思う。林業における技術革新

(生産性向上)を実感できた。力を入れて進めてほしい。国などの補助も必要だなと感じた。最後に、コンテナ苗の植え付けをさせてもらった。自分で植えた苗、大きく育ってほしいし、またいつか見学してみたいと思った。

11月27日大仙市での雄物川流域国有林の森林計画に関する住民懇談会にも参加する機会を得た。前回の見学もあり、山地災害に関する治山対策についてお願いすることができた。

森林は、豊かな水を育み、おいしい空気を作り出している。人の心の安らぎはもとより、山崩れや落石などの災害からも守っている。しかし、多くの人たちは、これを「当たり前」と思い、何も頭の中にないかもしれない。でも、このように過ごすことができるのも、森林を守っている人たちが各地にいるからだということをおぼろげに忘れない。国有林モニターとなり、「当たり前」を守っている人々に感謝しつつ、私たちも「当たり前」に甘えることなく、自分でできることをしていきたいと実感した。モニター便りを書くにあたり、以前配布されたみどりの東北や資料等を読み返してみた。現地見学会に行ったためか、書かれている文章が違和感なく頭に入る。「百聞は一見にしかず」一見を見て終わりにしないためにも、資料をちゃんと読んで見学に行こうと再確認した。



森林官からの手紙

地域に根ざして

岩手北部森林管理署 森林官(小鳥谷担当区)

小林 明仁



小鳥谷まつり

私の勤務する小鳥谷(こずや)森林事務所は、岩手県の北に位置する二戸郡一戸町に位置し一戸町と葛巻町の国有林を管轄しており、国有林の最前線で管理する責任感を持って様々な経験とともに楽しく仕事をしています。一戸町内には、世界遺産登録を目指す御所野遺跡という縄文時代中期後半の集落跡が保存されており、そこで800年にわたり人々が暮らしていたことが分かっています。遺跡を整備して作られた園内には、町内で発掘された土器や土偶を展示する博物館があるほか、竪穴住居などが復元されています。



一戸まつり終了後に祭り仲間と

どんな仕事をしているの?」などの声もありましたが、多くの人に国有林の仕事を知って貰うことができおります。9月に行われる八幡神社例大祭(小鳥谷まつり)では、2年続けて小鳥谷地区伝統の化粧まわしをつけて山車の前を歩きながら音頭あげにも挑戦しました。また、昨年は8月の最終金土日に開催される一戸まつり(八幡神社と稲荷神社の二社大祭)に見返しの人形制作から携わりましたが、5台の山車すべてが手作りで見応えがあります。ぜひ一戸まつり、小鳥谷まつりに遊びにいらしてください。



森林環境学習の様子

という木材を使った遊びを行いました。クツブとはスウェーデン語で「薪」を表します。スウェーデンのゴッドランド島(魔女の宅急便のモデルになった島)で家の軒先に積んであった薪を使って遊んだのが起源とされ、日本に普及してから10年程ですがその人口は激増しております。ウォッチングビンゴやクツブを通して子供たちには五感を使ってより深く自然にあるものを観察・体験してもらうことで身近な自然環境について考えて貰うきっかけとなっています。

今後も積極的に地域行事等に参加し、地域に根差した森林事務所となるよう取り組んでいきたいと思っております。



我が署の名所

平蔵沢ヒバ人工林施業展示林

(岩手県滝沢市)
盛岡森林管理署

平蔵沢ヒバ人工林は、盛岡駅から北西へ約8km(車で約15分)の地点にあります。

都市近郊にこのような歴史的にも貴重な財産ともいえる林分があることは、一部の森林・林業関係者以外には知られていないところです。

この林分は、江戸期天保14年(1843年)ごろ現在の青森県五戸町から移り住んだ牧田平馬という人物が、平蔵沢がマツ、スギ、ヒバの適地と見込んで農業の傍ら造林を始めたと伝えられています。

平蔵沢の造林地は、明治期になると大小林区署制度の制定により、大林区署の官林に編入され、現在まで国有林として管理されています。現在の林況は、植栽されたヒバが現存し、大径木主体の天然林の様相を呈するとともに、下層ではヒバ特有の伏条更新や実生による天然更新が観察されます。



展示林入口



天然更新の様子



天然林の様相を呈する林内



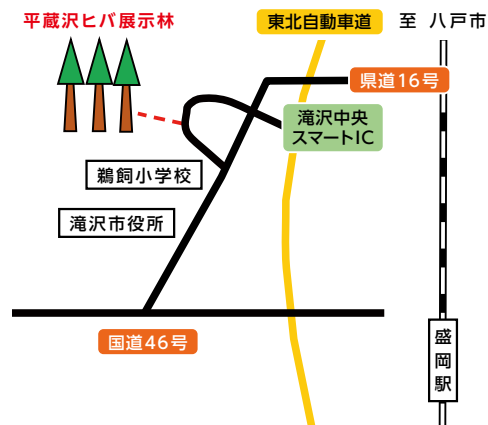
上空から見た展示林

ヒバの産地とされる青森県においても、ヒバの人工造林が開始されたのは明治以降であり藩政期の人工林は稀少であることから、青森営林局(現東北森林管理局)では管内最古のヒバ人工林として昭和30年に「学術参考林」に指定、平成元年の「保護林の再編・拡充」の中で「施業技術の開発とその定着及びPR、教育等の場として活用する」ことを目的として「展示林」に再編・設定され、現在の国有林野施業実施計画においても展示林に指定されています。

盛岡森林管理署では、北上川上流森林計画区域地域管理経営計画及び国有林野施業実施計画に基づき当該森林を適切に保全・管理し、展示林として「展示・保存を図り、森林観察、研修、森林教室、学術研究等の場に活用しています。

この森林の植生、林分状況の変化、ヒバ高齢人工林の生長解析等の調査・研究が、東北森林管理局職員や森林総合研究所等の研究者により行われています。

盛岡市中心部からも近く、アクセスも容易な場所に位置する平地林であり、市民が手軽に森林環境や郷土の林業史について学習できる森林ですので、一度足を運んでみてはいかがでしょうか。



◎交通アクセス

盛岡駅から展示林入口駐車場まで車で約15分
滝沢中央ICから展示林入口駐車場まで車で約5分
展示林入口駐車場から徒歩で約5分

盛岡森林管理署
〒020-0061 岩手県盛岡市北山二丁目2番40号
TEL 019-6638001
FAX 019-6638172

